

プラン8 川崎の魅力を育て発信する取組

アクションプログラム

1 音楽のまち・かわさきの推進 【達成状況区分 3】

【主な実施結果】

「音楽のまち・かわさき」推進協議会を中心に、民間活力を活かした音楽のまちづくりを推進

- ・「音楽のまち・かわさき」推進協議会の支援を、5周年記念紙、情報紙、ホームページ等による情報発信や横浜開国博ステージ（19日間66組出演）、ミューザ川崎シンフォニーホールにおける毎日映画コンクール（2月8日開催）等のPRイベントの実施等を通じて行いました。
- ・「アジア交流音楽祭」（4月18日及び19日開催・来場者85,000人、昨年度72,000人）、「交流の響き」（9月12日開催・来場者1,200人、昨年度1,600人）を開催しました。
- ・「東響キッズプログラム」、「カワサキストリートミュージックバトルⅢ」、「かわさきバスカー」「連連連・つながりかわさき」「JFEふれあいまつり」「D'Live（聴覚障がい者イベント）」等の民間主体の音楽イベントの開催を支援し、事業実施を推進しました。
- ・川崎市・ボルチモア市交流30周年記念のコンサートを開催し、延べ約580人が来場しました。
- ・東京交響楽団による巡回コンサートについて、市内各地で4回実施し、延べ約740人が来場しました。
- ・「子どもの音楽の祭典」の開催に向けて、ジョイフルバンド参加予定者を主な対象としたクリニック及びジョイフルバンド参加者のオーディション（8月24日実施・応募者145名）を実施するとともに、コンテスト参加者の募集を例年の手法に加えて、今年度は作成したポスターの市内諸施設への掲示及び小・中学校音楽発表会を通じた周知も行い、昨年より20団体多い66団体の応募があり、審査の結果、26団体が本選に出場しました。
- ・「子どもの音楽の祭典」を1月24日に開催し、募集広報の方法、祭典当日の賞のあり方及び時間設定を改善し、より効率的かつ円滑な実施を行うことができました。

ミューザ川崎シンフォニーホールを拠点とする「音楽のまち・かわさき」の推進

- ・ミューザ川崎シンフォニーホール開館5周年記念式典&コンサートを7月1日に開催し、1,205人が来場しました。また、バイエルン放送交響楽団公演等の海外オーケストラ公演を実施し、延べ14,656名が来場するなど、川崎シンフォニーホールの国内外での知名度の向上を図ることができました。

【課題と今後の取組】

- ・「音楽のまちづくり」の施策の総合的評価等を踏まえ、5年が経過した「音楽のまち・かわさき」の過去の実績と成果を活かした、更なる事業展開を図ります。「音楽のまちづくり」の波及により民間でのさまざまな自主的な取組の創出をより進めるとともに、推進協議会の活動を支援していきます。
- ・国際音楽文化交流事業として、イギリス・シェフィールド市との友好都市提携20周年を記念したコンサート及び写真展を開催します。また、東京交響楽団による巡回コンサートも実施していきます。
- ・ミューザ川崎シンフォニーホールにおいて、国内外の一流オーケストラによる公演や、音楽文化の裾野を広げ将来の聴衆を育てるフェスタサマーミューザ等の多彩な自主事業を展開するとともに、聴衆と演奏家双方に質の高いサービスを提供し、魅力あるホールとしての地位を確立できるよう引き続き指定管理者に対して適切な指導を実施します。

2 ホームタウンスポーツの振興 【達成状況区分 3】

【主な実施結果】

ホームタウンスポーツ推進パートナーの連携による、川崎のアピール・魅力づくり

- ・ ホームページや市政だよりをはじめとしたさまざまな媒体によるホームタウンスポーツに関する広報・PRを実施しました。
- ・ 小学校におけるホームタウンスポーツ推進パートナー等によるふれあいスポーツ教室や、並びに東芝野球部が出場した都市対抗野球（東京ドーム・8月26日）及び富士通レッドウェーブ（11月21日）、東芝ブレイブサンダース（1月15日）、NECロケッツ（2月27日）のホームゲームへの市民招待（8月26日実施）を実施し、ホームタウンスポーツの振興を図り、多くの市民が一流選手の活躍を身近に感じることができました。

川崎フロンターレの支援と応援を通じたスポーツ振興・青少年の健全育成

- ・ 市制記念試合（6月20日）への1,000組（昨年度比同組）の市民招待を実施し、833組（昨年度比67組減）の来場がありました。
- ・ 小・中学校での巡回サッカー教室を110回開催しました。
- ・ 川崎フロンターレの区民祭等への参加を促進するとともに、川崎フロンターレ連携・魅力づくり事業実行委員会において新たな企画事業を検討し、バナーフラッグの武蔵溝ノ口駅ペDESTリアンデッキへの増設、等々力競技場で初めてのパブリックビューイングの開催等の事業を実施しました。
- ・ 上記のような取組により、市民の連帯感を深めるとともに、スポーツ振興・青少年の健全育成などを推進することができました。

アメリカンフットボールの魅力を活かした活力あるまちづくり

- ・ 川崎をアメフットの拠点にするため、「アメリカンフットボールを活用したまちづくり推進委員会」を開催し、前期には今年度の、後期には来年度の取組の方向性をそれぞれ確認しました。
- ・ 川崎球場で開催される試合への市民招待を6回実施し、延べ422組の応募がありました。
- ・ 丸子・小杉桜まつり、楽大師、日吉まつり、いいじゃんかわさき、麻生区民祭などの大規模イベントにチアリーダー等が参加し、また、川崎球場周辺の商店の割引情報とアメフットのルール・魅力を掲載した「アメフット・商店街マル得マップ」の作成（30,000部）及び配布を行い、地域の活性化を図りました。
- ・ 授業における指導等を通じて、市内小中学校等におけるフラッグフットボールの普及を促進しました。
- ・ 市内限定ポスターの掲出、川崎駅東西自由通路河川情報掲示板の活用、パブリシティ活動等によりアメリカンフットボールの広報・PRを行いました。

総合型地域スポーツクラブの育成を通じた、地域に根ざしたスポーツの振興

- ・ 総合型地域スポーツクラブもしくはその準備会が未設置の区であった川崎区及び宮前区において、発起人会への重点的な指導・助言、本格的な活動に向けた助成金の申請、イベントの実施など具体的な支援を行ったことにより、総合型地域スポーツクラブ設立準備会が設立されました。
- ・ 川崎市総合型地域スポーツクラブ育成連絡協議会において検討を行った、既存クラブ・準備組織を含めた全市的な育成支援策について、実施するとともに、既設クラブに対しては活動の活性化に向けた普及啓発活動を行い、準備組織に対しては正式クラブ設立に向けた支援を行いました。

多摩スポーツセンターの整備

- ・ 建設計画に関する住民説明会（4月18日）の開催や計画地周辺における家屋調査の実施とともに、確認申請の確認許可を受け、建設工事（仮設工事、基礎工事、躯体工事及び設備工事）に着手しました。

アクションプログラム

「スーパー陸上競技大会 2009」の開催と連携したスポーツ振興

- ・昨年度の開催により川崎市の名を日本全国、世界に発信すること及び陸上競技の普及及び推進を図ることができたため、引き続き開催することとなり、スーパー陸上競技大会 2009 を9月23日（水・秋分の日）に開催し、15,634名の入場者がありました。また、市民を対象とした陸上競技に関連する、走り方教室や競歩体験教室等のサブイベントやアフターイベントを等々力陸上競技場や市内小学校で実施し、1,409名の参加がありました。

【課題と今後の取組】

- ・ホームタウンスポーツ推進パートナーと連携した取組を継続的に実施し、川崎の魅力づくりにつなげます。
- ・川崎フロンターレへの支援と応援を継続し、「川崎」の魅力発信、イメージアップ及び都市ブランドの向上を図ります。
- ・「アメリカンフットボールを活用したまちづくり取組指針」に沿った取組を継続して実施します。
- ・総合型地域スポーツクラブの育成及び設立に向けて、助成金の活用も含めたさまざまな支援を行い、市民の自主的な活動を促進します。
- ・多摩スポーツセンターの整備については平成22年度の開館に向けて、建設工事や管理運営の準備を進めます。
- ・市民スポーツ活動の推進に向けて、スポーツ振興審議会からの提言を踏まえながら引き続き各種スポーツ事業に対して多くの市民が参加できるような事業展開を行います。

3 多摩川プランに基づく重点施策の推進 【達成状況区分 3】

【主な実施結果】

多摩川における豊かな河川空間の創出をめざす「多摩川プラン」の推進

- ・多摩川プラン庁内推進会議及び推進会議を各2回開催し、進捗状況の報告と今後の進め方について協議を行いました。
- ・二子橋周辺エリア整備は、関係機関と調整の結果、平成20年8月29日の集中豪雨からの災害復旧を優先することとしたため、平成21年度に再整備することとしましたが、更に平成22年度にバーベキュー対策を行う予定としたため、二子橋周辺エリアの整備は中止としました。
- ・等々力・丸子橋周辺地区の再整備について、関係機関と調整し、駐車場の拡張等を行いました。
- ・簡易水洗トイレ設置について、設置箇所や構造について、関係機関等との調整し、下野毛他2箇所に設置しました。
- ・マラソンコース整備に係る関係機関との調整や現地調査等を実施し、改良工事を実施しました。
- ・利用者負担のあり方については、二子橋から丸子橋までの区間を対象とした新たな河川敷利用のあり方について検討を行い、河川敷の施設等の有効活用方策を取りまとめました。
- ・大師河原周辺エリアへの植樹について、着工時期や発生残土の取扱を国土交通省と協議しました。なお、第Ⅱ期工区についてはスーパー堤防事業の進捗に遅れが生じていることから、平成21年度に実施する予定が平成22年度に着手する予定となりました。
- ・スーパー堤防事業等にあわせた植樹について、関係機関との協議・調整を実施しました。
- ・かわさき多摩川博2009に基づく事業（桜のコンサート（4月4日）、源流との交流（5月4日）、生田緑地サマーミュージアム（8月1日）、いかだ下り（9月6日）、水ウォーク（11月14日）等）について、協働のルールに基づいたNPO法人と行政相互の役割を明確化して実施するとともに、新規事業の実施に向けた検討を行いました。
- ・二ヶ領せせらぎ館開館10周年事業（シンポジウム実施（8月16日）、記念誌の作成、写真コンクールの公募と表彰等）を実施し、市民活動の成果をまとめるとともに、今後に向けての発信事業についての検討を行いました。

アクションプログラム

- ・「多摩川エコミュージアムプラン」及び「多摩川プランのリーディングプロジェクト」について、NPO等市民団体との協働により実施しました。
- ・水辺の楽校の既存2校が月1回以上行っている活動を支援するとともに、第3の水辺の楽校の新設に向けて、組織のあり方を検討し、国や母体となる市民団体との協議・確認を実施しました。
- ・河口部における活動拠点である水防センターにおいては、開館日の増設（土・日・祝日に水曜日を追加）及び夏期（5月から11月）における開館時間の延長（午後3時から午後4時へ）を行うとともに、河口干潟での観察会、エコクラフト教室及び市内外の学校からの依頼による環境学習を実施しました。
- ・多摩川沿川の景観計画に基づく届出業務及び形態意匠条例を活用した地区計画において、多摩川景観形成ガイドラインを活用しました。

【課題と今後の取組】

- ・多摩川プランの進行管理と評価を適切に行うため、引き続き、推進会議を運営するとともに、重点エリアの再整備・再配置やマラソンコースの改良については、施設の長寿命化や維持管理費のより一層の低減も考慮しながら整備手法を検討していきます。
- ・平成22年度に予定している殿町地区高規格堤防事業地内の桜の植樹について、工事着手に向けた国土交通省や関係機関との協議を引き続き進めます。また、スーパー堤防事業や沿川市街地整備等に合わせた植樹についても、引き続き、国や民間事業者と調整を図り、並木等の創出を進めていきます。
- ・多摩川に対する市民の関心も、多摩川の持つ自然環境に対する関心も高いことから、引き続きNPOや市民団体等と協働して、より参加しやすく楽しみながら多摩川の持つ魅力を知っていただく事業を進めていきます。
- ・既存の2校の水辺の楽校については、各校の自主的な環境学習の取組を引き続き支援していき、水防センターについては、河口域における自然環境を紹介する場として支援を行っていき、第3の水辺の楽校については、地域の学校などとも連携を図りながら開校を行っていきます。
- ・多摩川沿川の景観計画に基づく届出業務及び形態意匠条例を活用した地区計画において、引き続き多摩川景観形成ガイドラインを活用します。

4 地域の魅力発信・活性化と連携した文化芸術振興 【達成状況区分 3】

【主な実施結果】

文化芸術振興計画に基づく、文化芸術振興施策の総合的・計画的な推進と市民の創造的活動による、文化芸術を活かした個性豊かな地域づくり

- ・「文化芸術振興計画」上の全事業について、平成20年度実績の事業進捗調書の点検を行い、進行管理一覧を作成しました。
- ・文化芸術振興会議等において、対象事業の前年度実施内容の確認、実地調査、評価方法の検討及び平成22年度対象事業の選定を行い、文化アセスメントの実施及び次年度の準備を行いました。
- ・「音楽のまちづくり」施策の総合的評価に向けた中間報告の支援を行い、中間報告書の提出を受けました。また、最終報告書の作成に向けて、平成20年度実施の調査を定量調査と位置づけ、平成21年度には定性調査（郵送調査、市民モニター調査等）を政策研究大学院大学が行い、市はその協力支援を行いました。
- ・市民の参加及び協力により、かわさき市美術展、かわさき市民第九コンサート、川崎市文化賞等贈呈事業を行い、市民の文化芸術活動の支援及び多様な文化芸術活動の交流を行いました。
- ・川崎市アートセンターでは、芸術文化を創り、楽しむとともに、アーティストの育成につながる芸術文化の創造、発信・交流を促進するため、青少年舞台芸術教育・育成事業（参加者18名）等の主催、共催及び提携事業を実施しました。

アクションプログラム

- ・川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）2009 開催に向けた準備（広報活動、企画会議及び実行委員会の開催、市内外の関係機関との連絡調整等）を行い、4月24日から5月10日まで開催しました。その後の検証により、持続可能な地域主体の取組として継続して開催することとなったため、来年度の開催に向けて「川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）2010」実行委員会を立ち上げ、実施主体の検討、企画内容の立案及び広報方針の決定を行いました。

新百合ヶ丘駅周辺地区を中心とした芸術を通じた魅力と活力あるまちづくり

- ・「KAWASAKI しんゆり映画祭」を運営する事務局を組織するための支援、映画祭のボランティアスタッフ養成講座の開催（5月16日及び5月23日開催、講座参加者17人、受講者によるボランティア参加者16人）等を行い、第15回「KAWASAKI しんゆり映画祭 2009」を開催しました（9月19日～27日（前年度10月12日～11月3日）、参加者2,182名（前年度3,285名））。
- ・「しんゆり・芸術のまち」の推進に向け、マイタウン21、タウンニュース、J-COM せたまち、ミスモリッシュ、くらしの窓及びK-Pressによる情報発信を行いました。
- ・新百合ヶ丘駅周辺への案内板（サイン）の設置に向けて、デザイン・設置場所の地元景観形成協議会への諮問、麻生区建設センターへの工事依頼及び関係機関への工事説明を行い、設置工事が完了しました。
- ・「しんゆり・芸術のまち」の推進に向け、「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラムのネットワーク機能を活かすほか、推進機関として2月にNPO法人が新たに設立され、まちづくりの推進体制を確立しました。また、新たに情報コンシェルジュなどを行う「新百合ヶ丘駅周辺地区活性化推進事業」の開始、「kirara@アートしんゆり」（11月21日～2月14日開催）及び「しんゆりオーリーブまつり」（10月3日～11月8日開催・初開催）の開催支援などを行いました。

藤子・F・不二雄ミュージアムの整備

- ・覚書について、藤子プロと調整を行い、締結するとともに、パブリックコメント手続を経て、基本計画を策定しました。
- ・覚書及び基本計画に基づき、藤子・F・不二雄ミュージアムの運営方法について、藤子プロと調整を行いました。
- ・基本設計・実施設計について、関係事業者との調整を進め、建設着工に向けた基本設計及び実施設計を完了するとともに、事業用地の確保のための土地所有者との最終合意形成及び建設に必要な行政手続を実施しました。
- ・文化施設に係る負担付きの寄附の受納について議会へ上程し、議決を得ました。
- ・川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）2009 と連携し、原画展（入場者3,570人）を実施しました（4～5月）。

青少年科学館の改築整備

- ・改築に向け、改築実施設計委託（6月22日契約、3月15日完了）、展示実施設計委託（4月30日契約、3月31日完了）及びプラネタリウム開発委託（3月1日契約、継続実施）を実施しました。

映像関連の民間の動きとの連携による映像を核としたまちづくりの推進

- ・「映像のまち・かわさき」推進フォーラムと連携し、高校生限定試写会、小学校での映像制作等による映像教育の推進、映像コンテンツビジネスサロン開催、アジアンフェスタや市民祭り等の地域イベント出展等を行いました。
- ・国の緊急雇用経済対策事業を活用し、NPOによるロケ地のデータベース化、川崎大師商店街内への「映まちキネマハウス」の開設や本市事業の動画PR映像の制作など、映像を活用した地域の活性化に取り組みました。
- ・映像関連ビジネスネットワーク化モデル事業として、「毎日映画コンクール」を核にパブリックビューイングを中心に地域の活性化を推進するとともに、川崎の魅力を全国に発信しました。
- ・7月の「富川ファンタスティック国際映画祭」へ参加し、韓国映画界との交流を図りました。

アクションプログラム

【課題と今後の取組】

- ・文化芸術振興会議において文化アセスメントを引き続き実施するとともに、文化芸術関連事業の進捗を管理するなどにより、文化芸術振興計画の推進を図ります。また、「音楽のまちづくり」の施策の総合評価について、政策研究大学院大学から報告書の提出を受け、今後の施策への反映について検討を行います。
- ・市民の文化芸術活動への参加や機会の提供に向けてさまざまな事業を引き続き実施していくとともに、文化振興基金の積立と運用の視覚化に向けて引き続き検討します。
- ・川崎市アートセンターにおいて、市民の芸術文化の創造、発信、交流を促進する多彩な事業のほか、新進のアーティストと共催・提携した事業を引き続き実施します。また、これまでの指定管理者による運営の結果を踏まえ、次期指定管理者選定に向けた仕様書作成などにより施設のより一層の周知と施設利用増への取組を実施します。
- ・新百合ヶ丘駅周辺の地域において地域全体が一体となって、さらに芸術のまちとなるよう、まちの賑わいの創出、市内外への発信をしていきます。
- ・「KAWASAKI しんゆり映画祭」はこれまでの実績を踏まえ「映像のまち・かわさき」との連携をより強化していきます。また、市民の市への愛着を深めるため、引き続きかわさきかたるたの原画展の開催や地名研究調査を実施します。
- ・これまで「しんゆり・芸術のまち」を推進してきた「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラムと新たに設立したNPO法人との両輪で、効果的なまちづくりの推進を図ります。
- ・藤子・F・不二雄ミュージアムの整備については、平成 21 年度に策定した覚書に基づき、関係者と調整を行い工事に着手し、本市の役割分担である基盤整備を推進するとともに、公の施設の設置条例の議会への上程及び指定管理者の選定等を行います。
- ・青少年科学館の改築整備に向けて、現在のプラネタリウム館を解体し、新しいプラネタリウムや展示室、レストスペースなどを設置する新館の建築工事に着手するとともに、新型プラネタリウムの開発を引き続き実施します。なお、工事期間中は、仮設プラネタリウムで学習投影などを継続します。
- ・「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの支援を通じ、地域資源を活かしたまちづくりを推進します。また、ふるさと基金事業については、平成 23 年度まで事業実施が可能なことから、地域消費活性化事業と映像コンテンツ制作推進事業について引き続き、雇用の促進を図りつつ、効果的な事業執行ができるよう委託を行っていきます。

5 シティセールスの推進と観光振興 【達成状況区分 2】

【主な実施結果】

産業を核とした地域環境資源の創出・拡充と多様な情報発信

- ・携帯端末観光情報ホームページを作成し、開設しました。
- ・川崎・登戸観光情報端末を安定的に運営管理し、確実に観光情報を発信しました。
- ・外国語ホームページのプロモーション活動を中国・韓国に対して7・8月に行い、アクセス数について、プロモーション前の6月に比べ、7月は117%増、8月は127%増の効果をめました。また、ビジット・ジャパン・キャンペーン事業として、横浜市・神奈川県等と連携して7月9日及び10日に香港メディア関係者を招聘し、川崎の魅力効果を効果的に海外に発信しました。また、新規企画としてホテル情報及びフォトギャラリーのページを作成し、内容の充実を図りました。
- ・かわさき市民祭りの実行委員会を6月4日に開催し、準備を進め、10月30日から11月1日までかわさき市民祭りを開催しました。その後、来年度の開催に向けた検討会を実施し、課題を整理しました。
- ・産業観光検定合格者の集い（参加者34人）及び検定合格者のうち希望者を対象にした「産業観光ガイド養成講座」（4回、参加者65人）を開催し、研修修了者の活用の検討にとどまらず、予定を大きく早めて研修修了者に産業観光ツアー及び工場夜景バスツアーの有料のガイドとして活躍してもらうまで事業を推進することができました。
- ・産業観光施設と川崎の観光資源を取り入れ、旅行会社とタイアップした「産業観光ツアー」を、計画の10回を上回る、13回実施しました。
- ・工場景観を活用した取組として、民間事業者とタイアップし、平成22年度以降の事業実施を検討していた「工場夜景屋形船クルーズ」の定期運航及び「川崎工場夜景バスツアー」を予定より大幅に早く事業化することに成功しました。

アクションプログラム

さまざまなメディアの活用や民間事業者との連携によるシティセールスの推進

- ・日刊新聞紙へのイメージアップ広告の掲載、パブリシティ活動による各種取組・イベント等魅力情報の発信を行い、パブリシティによる広告換算額が昨年度に初めて達成した10億円を超える年間実績(1,028,329千円)を大きく上回る1,579,435千円(累計)の成果をあげました。
- ・メディアリレーションのより効果的な手法による構築のため、「メディアツアーの推進」に換えて、主要テレビ局の情報番組のロケハン・ロケへの同行を行いました。
- ・イメージアップ事業については、34件の応募事業の中から9件の事業を認定し、認定各事業を本市の魅力情報として広く発信しました。
- ・イメージアップCMコンテストについては、昨年約2.5倍となる過去最高の52作品の応募を得、入賞作品を新宿アルタビジョンでの放映に活用するなど本市の魅力情報の発信に活用しました。
- ・イタリアサミット及び第15回気候変動枠組条約締約国会議(COP15)に合わせて国内英字紙を活用した情報発信を行いました。また、同紙を現地配布したほかフォーリンプレスセンターを活用した環境技術展の情報配信実施など、海外向けパブリシティ活動を行いました。

【課題と今後の取組】

- ・観光協会連合会、商工会議所、市民団体、企業等、また、九都県市や近隣都市と連携して集客事業を実施するとともに、ホームページ、チラシ等各種広報媒体を活用して、積極的に広報活動を行っていきます。また、観光協会連合会の自主的な活動基盤の強化のため、会費・協賛金、補助金等の収入増に向け、助言・指導を行います。
- ・「川崎産業観光ツアー」については、旅行会社による一層の主体的な取組が行われるように促すとともに、効果的な広報について検討していく必要があります。さらに、市外の観光客を誘客するための産業観光ツアーを旅行会社とタイアップして実施していく必要があります。また、産業観光検定合格者のうちの希望者を組織化し、産業観光ガイドや産業観光ツアーの企画などで活躍してもらうしくみについて検討していく必要があります。
- ・メディアへの取材誘致活動を積極的に行う自治体が増加し、都市間競争が激化している状況の中で、地域情報を対外的にアピールするため、引き続き、メディアリレーションの構築・強化を推進し、費用対効果の高いパブリシティを主体とした情報発信力の強化に取り組み、本市の魅力に関する情報を海外も含めた市内外に情報を発信します。

施 策 計 画

施 策 計 画 名	現 状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降

アクションプログラム：音楽のまち・かわさきの推進【達成状況区分： 3 】

○ 音楽のまちづくりの推進 「音楽のまち・かわさき」推進協議会を中心に、民間活力を活かした音楽のまちづくりを推進します。また、市内の身近な場所での良質な音楽の提供と交流による、音楽のまちづくりを推進します。	●「音楽のまち・かわさき」推進協議会の支援 ●「アジア交流音楽祭」、「交流の響き」等の開催支援 ●民間活力を活かした事業推進 ●「姉妹都市リエカ市との提携30周年」、「姉妹都市ウーロンゴン市との提携20周年」記念コンサートの開催 ●東京交響楽団による巡回コンサートの開催 ●アマチュア演奏家による「音楽のまちコンサート」の開催 ●「子どもの音楽の祭典」の実施	●「音楽のまち・かわさき」推進協議会の支援 ●「アジア交流音楽祭」、「交流の響き」等の開催支援 ●民間活力を活かした事業推進の拡充 ●友好港ダナン市が「アジア交流音楽祭」に参加 ●東京交響楽団による巡回コンサートの開催 ●アマチュア演奏家による「音楽のまちコンサート」の開催 ●「子どもの音楽の祭典」の実施	●「姉妹都市ボルチモア市との提携30周年記念コンサート」の開催	●「音楽のまちづくり」の施策の総合的評価等を踏まえた検討 ●国際交流コンサートの開催	事業推進

2008年度 実施結果

達成状況区分
3

・「音楽のまち・かわさき」推進協議会を中心として、情報発信、人材育成、その他民間主体の活動等の着実な推進を図りました。

・「アジア交流音楽祭」では、6つの交流ステージの開催で過去最高の7万人が来場し、経済労働局所管の「かわさきアジアフェスタ」との連携で、川崎駅周辺のまちの賑わいを創出しました。

・「交流の響き」には、過去最多の全国の地方新聞社主催音楽コンクール入賞者が参加し、「音楽のまち・かわさき」を全国に発信することができました。

・民間主体の事業を支援することで、「京浜ロック音楽祭」、「カワサキストリートミュージックバトルⅢ」等を開催することができました。

・本市の友好港を有するベトナム・ダナン市からダナン伝統音楽団を招聘し、「アジア交流音楽祭」への参加及び「川崎市・ダナン市交流コンサート」の開催をとおして両市の交流と市民のダナン市への理解を深めました。

・フランチャイズオーケストラである、東京交響楽団による市内巡回公演を実施し、市民に良質な音楽に触れる機会を提供しました。

・「音楽のまちコンサート」を開催し、アマチュア音楽家の発表の機会を提供しました。

・「子どもの音楽の祭典」には、ジョイフルバンド122名、合唱団約300名、延べ入場者1,600名以上の参加があり、盛況に実施されました。

施 策 計 画

施 策 計 画 名		現 状	目 標			
			2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
2009年度 実施結果		達成状況区分 3	・「音楽のまち・かわさき」推進協議会の支援を、5周年記念紙、情報紙、ホームページ等による情報発信や横浜開国博ステージ(19日間66組出演)、ミューザ川崎シンフォニーホールにおける毎日映画コンクール(2月8日開催)等のPRイベントの実施等を通じて行いました。 ・「アジア交流音楽祭」(4月18日及び19日開催・来場者85,000人、昨年度72,000人)、「交流の響き」(9月12日開催・来場者1,200人、昨年度1,600人)の開催を支援しました。 ・「東響キッズプログラム」、「カワサキストリートミュージックバトルⅢ」、「かわさきバスカー」「連連連・つなごうかわさき」「JFEふれあいまつり」「D'Live(聴覚障がい者イベント)」等の民間主体の音楽イベントの開催を支援し、事業実施を推進しました。 ・川崎市・ボルチモア市交流30周年記念コンサートについて、実行委員会を立ち上げ、3回(1月17日、19日及び23日)開催し、延べ約580人が来場しました。 ・ミューザ川崎シンフォニーホール開館5周年記念式典＆コンサートを7月1日に開催し、1,205人が来場しました。 ・東京交響楽団による巡回コンサートの会場、日程等を調整し、後期に市内各地で4回実施し、延べ約740人が来場しました。 ・「子どもの音楽の祭典」の開催に向けて、ジョイフルバンド参加予定者を主な対象としたクリニック及びジョイフルバンド参加者のオーディション(8月24日実施・応募者145名)を実施するとともに、コンテスト参加者の募集を例年の手法に加えて、今年度は作成したポスターの市内諸施設への掲示及び小・中学校音楽発表会を通した周知も行い、昨年より20団体多い66団体の応募があり、審査の結果、26団体が本選に出場しました。 ・「子どもの音楽の祭典」を1月24日に開催し、募集広報の方法、祭典当日の賞のあり方及び時間設定を改善し、より効率的かつ円滑な実施を行うことができました。			
○ 川崎シンフォニーホールの運営 「音楽のまち・かわさき」の中核施設として市民に良質な音楽を提供するとともに、国際的知名度の向上を図ります。		●「フェスタサマーミューザ」の開催 ●海外オーケストラによる演奏会の開催	●「フェスタサマーミューザ」の開催 ●海外オーケストラによる演奏会の開催	●ミューザ川崎シンフォニーホール開館5周年事業の実施		事業推進
2008年度 実施結果		達成状況区分 3	・フェスタサマーミューザKAWASAKI2008を開催し、来場者の総数は37,031人となりました。 ・ウィーンフィルハーモニー管弦楽団及びベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の公演を開催しました。 ・ミューザ川崎シンフォニーホールの運営を計画どおり実施し、平成21年度に開館5周年を迎えるにあたり、魅力あるホール運営に取り組むことができました。			
2009年度 実施結果		達成状況区分 3	・フェスタサマーミューザKAWASAKI2009を開催し、来場者の総数は31,276名(昨年度37,031名)となりました。 ・MUZAバースデーコンサート(7月1日開催)等のミューザ川崎シンフォニーホール開館5周年公演及びバイエルン放送交響楽団公演等の海外オーケストラ公演を実施し、延べ16,956名が来場し、「音楽のまち・かわさき」のシンボルである川崎シンフォニーホールの国内外での知名度の向上を図ることができました。			
アクションプログラム：ホームタウンスポーツの振興【達成状況区分： 3 】						
○ ホームタウンスポーツの推進 ホームタウンスポーツ推進パートナーと連携した取組を進め、川崎のアピール・魅力づくりを図ります。		●ホームタウンスポーツ推進パートナーと連携した取組の推進(7団体、1個人認定)	●ホームタウンスポーツ推進パートナーと連携した取組の推進			事業推進
2008年度 実施結果		達成状況区分 3	・ポスター掲出、ビデオ放映によるホームタウンスポーツのPR・広報を推進し、市の魅力発信を行ったほか、小中学生への実技指導や試合への市民招待などを通じてスポーツの振興を図り、多くの市民が一流選手とふれあうことができました。			
2009年度 実施結果		達成状況区分 3	・ホームページや市政だよりをはじめとしたさまざまな媒体によるホームタウンスポーツに関する広報・PRを実施しました。 ・小学校におけるホームタウンスポーツ推進パートナー等によるふれあいスポーツ教室、並びに東芝野球部が出場した都市対抗野球(東京ドーム・8月26日)及び富士通レッドウェーブ(11月21日)、東芝ブレイブサンダース(1月15日)、NECロケッツ(2月27日)のホームゲームへの市民招待(8月26日実施)を実施し、ホームタウンスポーツの振興を図り、多くの市民が一流選手の活躍を身近に感じることができました。			

施 策 計 画

施 策 計 画 名	現 状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
○ Jリーグクラブの支援 川崎フロンターレの支援と応援を通して、市民の連帯感を深めるとともに、スポーツ振興・青少年の健全育成などを進めます。	●市制記念試合等に市民招待の実施 ●小・中学校での巡回サッカー教室の開催 ●川崎フロンターレの区民祭等への参加促進	●市制記念試合等に市民招待の実施 ●小・中学校での巡回サッカー教室の開催 ●川崎フロンターレの区民祭等への参加促進			事業推進
2008年度 実施結果	達成状況区分 3	・川崎フロンターレ後援会会員数は、昨年度から3,503人増え20,189人となりました。また観客動員数は、298,597人でした。 ・市制記念試合(7月26日)への1,000人の市民招待を実施し、900人の来場がありました。 ・小・中学校での巡回サッカー教室、区民祭等への参加及び川崎フロンターレをイメージするカラーによる街の装飾を行いました。			
2009年度 実施結果	達成状況区分 3	・市制記念試合(6月20日)への1,000組(昨年度比同組)の市民招待を実施し、833組(昨年度比67組減)の来場がありました。 ・小・中学校での巡回サッカー教室を110回開催しました。 ・川崎フロンターレの区民祭等への参加を促進するとともに、川崎フロンターレ連携・魅力づくり事業実行委員会において新たな企画事業を検討し、パナフラグの武蔵溝ノ口駅ペDESTリアンデッキへの増設、等々力競技場で初めてのパブリックビューイングの開催等の事業を実施しました。 ・上記のような取組により、市民の連帯感を深めるとともに、スポーツ振興・青少年の健全育成などを推進することができました。			
○ アメリカンフットボールを活用したまちづくりの推進 競技団体、地域、市民と連携しながら、アメリカンフットボールの魅力を活かした活力あるまちづくりを推進します。	●「第3回アメリカンフットボールワールドカップ2007川崎大会」の開催 ●日本アメリカンフットボール協会との協定締結 ●アメフトを活用したまちづくり懇談会の設置 ●アメフトを活用したまちづくりに向けた基本的考え方の検討 ●フラッグフットボール普及促進等による青少年の健全育成の推進	●川崎をアメフトの拠点にするための取組の検討及び関係機関との調整 ●イベントへの選手・チアリーダーの参加などアメフトを活用した地域活性化策の推進 ●フラッグフットボール普及促進等による青少年の健全育成の推進 ●アメフトの普及方策の検討	●川崎をアメフトの拠点にするための取組の実施		事業推進
2008年度 実施結果	達成状況区分 3	・川崎をアメリカンフットボールの拠点にするため、日本アメリカンフットボール協会、日本フラッグフットボール協会と協働で、アメリカンフットボールを活用したまちづくり取組指針(案)を取りまとめました。 ・アメリカンフットボールを活用したまちづくりを効果的に推進するため、「アメリカンフットボールを活用したまちづくり推進委員会」を設置しました。 ・地域イベントの活用や広告物の掲出などを通じて競技の魅力を広報・PRし、地域活性化に貢献するとともに、アメリカンフットボールの普及方策を検討しました。 ・市内小中学校等におけるフラッグフットボールの普及を促進するとともに、競技団体と定期的に意見交換を行いました。			
2009年度 実施結果	達成状況区分 3	・川崎をアメフトの拠点にするため、「アメリカンフットボールを活用したまちづくり推進委員会」を開催し、前期には今年度の、後期には来年度の取組の方向性をそれぞれ確認しました。 ・川崎球場で開催される試合への市民招待を6回実施し、延べ422組の応募がありました。 ・丸子・小杉桜まつり、楽大師、日吉まつり、いいじゃんかわさき、麻生区民祭などの大規模イベントにチアリーダー等が参加し、また、川崎球場周辺の商店の割引情報とアメフトのルール・魅力を掲載した「アメフト・商店街マル得マップ」の作成(30,000部)及び配布を行い、地域の活性化を図りました。 ・授業における指導等を通じて、市内小中学校等におけるフラッグフットボールの普及を促進しました。 ・市内限定ポスターの掲出、川崎駅東西自由通路河川情報掲示板の活用、パブリシティ活動等によりアメリカンフットボールの広報・PRを行いました。			

施 策 計 画

施 策 計 画 名	現 状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
○ 総合型地域スポーツクラブの育成 地域住民が主体となって運営する総合型地域スポーツクラブを育成して、地域に根ざしたスポーツ振興を推進します。	●クラブ数 4クラブ	●クラブ数 4クラブ	●クラブ数 5クラブ	→	●各区で展開
2008年度 実施結果	達成状況区分 3	・総合型地域スポーツクラブの設立に向けた育成支援の結果、幸総合型スポーツクラブ「PLUM」が設立され、クラブ数が5クラブになりました。			
2009年度 実施結果	達成状況区分 3	・総合型地域スポーツクラブもしくはその準備会が未設置の区であった川崎区及び宮前区において、発起人会への重点的な指導・助言、本格的な活動に向けた助成金の申請、プレイベントの実施など具体的な支援を行ったことにより、総合型地域スポーツクラブ設立準備会が設立されました。 ・川崎市総合型地域スポーツクラブ育成連絡協議会において検討を行った、既存クラブ・準備組織を含めた全市的な育成支援策について、実施するとともに、既設クラブに対しては活動の活性化に向けた普及啓発活動を行い、準備組織に対しては正式クラブ設立に向けた支援を行いました。			
○ 多摩スポーツセンターの整備 市民の健康増進及び体力の向上を図る地域のスポーツ拠点として、多摩スポーツセンターを整備します。	●PFI手法による整備推進に向けた取組	●多摩スポーツセンター用地取得 ●基本・実施設計	●建設工事着手	●完成・開館	
2008年度 実施結果	達成状況区分 3	・多摩スポーツセンター建設に向けて、用地取得、条例改正及び基本設計・実施設計を行いました。			
2009年度 実施結果	達成状況区分 3	・建設計画に関する住民説明会(4月18日)の開催や計画地周辺における家屋調査の実施とともに、確認申請の確認許可を受け、建設工事(仮設工事、基礎工事、躯体工事及び設備工事)に着手しました。			
○ 日本陸上競技選手権大会の開催 日本陸上競技選手権大会の円滑な運営に向け、等々力陸上競技場の第1種公認化等に必要な施設整備を行います。	●等々力陸上競技場整備工事 ●等々力緑地中央グラウンド整備工事 ●陸上競技備品の購入	●円滑な大会運営に向けた施設整備 ●等々力陸上競技場及び中央グラウンドの第1種及び第3種公認手続の実施			
2008年度 実施結果	達成状況区分 3	・第1種及び第3種公認の取得と、仮設記者席・防風対策シート等の設置及び備品の購入・リース・修繕等の準備を実施し、6月26日から29日の4日間で第92回日本陸上競技選手権大会・第29回オリンピック競技大会代表選手選考競技会を開催しました。			
○ スーパー陸上競技大会2008の開催 地域スポーツ活動の振興を図るとともに、スーパー陸上競技大会開催と連携したスポーツ振興に取り組みます。		●スーパー陸上競技大会2008開催と連携したスポーツ振興の取組の実施			
2008年度 実施結果	達成状況区分 3	・スーパー陸上競技大会を本市で初めて開催し、2万人を超える観客動員となりました。また、サブイベントやアフターイベントを多数開催し、市民スポーツの振興に取り組みました。			
2009年度 実施結果	達成状況区分 3	・スーパー陸上競技大会2009を9月23日(水・秋分の日)に開催し、15,634人の入場者がありました。また、市民を対象とした陸上競技に関連する、走り方教室や競歩体験教室等のサブイベントやアフターイベントを等々力陸上競技場や市内小学校で実施し、1,409名の参加がありました。 【環境等の変化・課題等】 スーパー陸上競技大会2008の開催により、川崎市の名を日本全国、世界に発信することができるとともに、陸上競技の普及、推進を図ることができたため、引き続きスーパー陸上競技大会2009を開催することとしました。			

施 策 計 画

施 策 計 画 名	現 状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
アクションプログラム：多摩川プランに基づく重点施策の推進【達成状況区分： 3 】					
○ 多摩川プランの推進 市民団体等と連携しながら、多摩川における豊かな河川空間の創出をめざす「多摩川プラン」の推進に取り組みます。	●多摩川プランの策定 ●多摩川プラン推進会議の運営 ●二子橋周辺エリア整備 <				

施 策 計 画

施 策 計 画 名	現 状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
2008年度 実施結果	達成状況区分 3	・多摩川プラン推進のため、等々力・丸子橋地区周辺エリアの再整備や「川崎市多摩川サイン計画」の策定、冬季の鮎の調査や「かわさき多摩川博2008」等の協働事業を行うとともに、多摩川プラン推進会議等を開催し、多摩川プランの進捗状況確認や課題整理を行いました。 ・二子橋周辺エリアの再整備について、国と協議・調整を行いました。 ・集中豪雨により破損したマラソンコース復旧工事を行うとともに、再整備について国と協議・調整を行いました。 ・簡易水洗トイレは丸子橋他2箇所に設置しました。 ・施設利用にあたっての利用者負担のあり方については、料金の改定や管理運営方法の素案を取りまとめました。 ・大師河原周辺エリアのスーパー堤防事業にあわせた植栽を実施するとともに、スーパー堤防事業等に合わせた植樹についても関係機関との協議・調整を行いました。 ・水辺の楽校2校の支援については、月1回程度開催される活動を支援するとともに、3校目の水辺の楽校開校に向けた取組として、水防センターを拠点に市民団体等との連携によるイベントや環境学習を開催しました。			
2009年度 実施結果	達成状況区分 3	・多摩川プラン市内推進会議及び推進会議を各2回開催し、進捗状況の報告と今後の進め方について協議を行いました。 ・等々力・丸子橋周辺地区の再整備について、関係機関と調整し、駐車場の拡張等を行いました。 ・簡易水洗トイレ設置について、設置箇所や構造について、関係機関等と調整し、下野毛他2箇所に設置しました。 ・マラソンコース整備に係る関係機関との調整や現地調査等を実施し、改良工事を実施しました。 ・利用者負担のあり方については、二子橋から丸子橋までの区間を対象とした新たな河川敷利用のあり方について検討を行い、河川敷の施設等の有効活用方策を取りまとめました。 ・大師河原周辺エリアへの植樹について、着工時期や発生残土の取扱を国土交通省と協議しました。 ・スーパー堤防事業等にあわせた植樹について、関係機関との協議・調整を実施しました。 ・かわさき多摩川博2009に基づく事業(桜のコンサート(4月4日)、源流との交流(5月4日)、生田緑地サマーミュージアム(8月1日)、いかだ下り(9月6日)、水ウオーク(11月14日)等)について、協働のルールに基づいたNPO法人与自然相互の役割を明確化して実施するとともに、新規事業の実施に向けた検討を行いました。 ・二ヶ領せせらぎ館開館10周年事業(シンポジウム実施(8月16日)、記念誌の作成、写真コンクールの公募と表彰等)を実施し、市民活動の成果をまとめるとともに、今後に向けての発信事業についての検討を行いました。 ・「多摩川エコミュージアムプラン」及び「多摩川プランのリーディングプロジェクト」について、NPO等市民団体との協働により実施しました。 ・水辺の楽校の既存2校が月1回以上行っている活動を支援するとともに、第3の水辺の楽校の新設に向けて、組織のあり方を検討し、国や母体となる市民団体との協議・確認を実施しました。 ・河口部における活動拠点である水防センターにおいては、開館日の増設(土・日・祝日に水曜日を追加)及び夏期(5月から11月)における開館時間の延長(午後3時から午後4時へ)を行うとともに、河口干潟での観察会、エコクラフト教室及び市内外の学校からの依頼による環境学習を実施しました。 ・多摩川沿川の景観計画に基づく届出業務及び形態意匠条例を活用した地区計画において、多摩川景観形成ガイドラインを活用しました。 【環境等の変化・課題等】 ・二子橋周辺エリア整備は、関係機関と調整の結果、平成20年8月29日の集中豪雨からの災害復旧を優先することとしたため、平成21年度に再整備することとしましたが、更に平成22年度にパーベキュー対策を行う予定としたため、二子橋周辺エリアの整備は中止としました。 ・大師河原周辺エリアへの植樹のうち、第Ⅱ期工区についてはスーパー堤防事業の進捗に遅れが生じていることから、平成21年度に実施する予定が平成22年度に着手する予定となりました。			

施 策 計 画

施 策 計 画 名	現 状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
アクションプログラム：地域の魅力発信・活性化と連携した文化芸術振興【達成状況区分： 3】					
○ 文化行政の推進 文化芸術振興計画に基づき、文化芸術振興施策を総合的・計画的に進めます。	●「文化芸術振興計画」の策定 ●文化アセスメントの検討 ●「音楽のまちづくり」の施策の総合的評価に向けた検討・調整	●計画に基づく文化行政施策の推進 ●文化アセスメントの試行実施 ●評価に向けた事前調査	●文化アセスメントの本格実施 ●評価に向けた本調査	●文化アセスメントの推進 ●評価結果の公表	事業推進
2008年度 実施結果	達成状況区分 3	・「文化芸術振興計画」による施策の推進を図り、文化芸術振興会議の審議による文化アセスメントの実施準備及び試行を実施しました。 ・「音楽のまちづくり」の施策の総合評価に向けた事前調査を実施しました。			
2009年度 実施結果	達成状況区分 3	・「文化芸術振興計画」上の全事業について、平成20年度実績の事業進捗調書の点検を行い、進捗管理一覧を作成しました。 ・文化芸術振興会議等において、対象事業の前年度実施内容の確認、実地調査、評価方法の検討及び平成22年度対象事業の選定を行い、文化アセスメントの実施及び次年度の準備を行いました。 ・「音楽のまちづくり」施策の総合的評価に向けた中間報告の支援を行い、中間報告書の提出を受けました。また、最終報告書の作成に向けた定性調査（郵送調査、市民モニター調査等）のため、実施主体である政策研究大学院大学に対して協力支援を行いました。 ・市民の参加及び協力により、かわさき市美術展、かわさき市民第九コンサート、川崎市文化賞等贈呈事業を行い、市民の文化芸術活動の支援及び多様な文化芸術活動の交流を行いました。 【環境等の変化・課題等】 ・調査実施主体である、政策研究大学院大学と調査手法について調整した結果、平成20年度実施の調査を定量調査と位置づけ、平成21年度には定性調査を実施し、併せて本調査と捉えることとしました。			
○ アートを活かしたまちづくりの推進 市民の芸術文化の創造・発信・交流を促進するとともに、メディアアートや市民によるアートプロジェクトなどの創造的活動を促進し、アートを活用したまちづくりを推進します。	●「アートセンター」の開館 ●「芸術のまちイベント」開催に向けた検討	●青少年舞台芸術活動等の創造的事業の実施 ●アーティストの育成 ●「芸術のまちイベント」開催に向けた検討・調整	●「芸術のまちイベント」の開催		事業推進
2008年度 実施結果	達成状況区分 3	・川崎市アートセンターでは、芸術文化を創り、楽しむとともに、アーティストの育成につながる芸術文化の創造、発信・交流を促進する多彩な事業（青少年舞台芸術活動等）を実施しました。 ・平成21年春のゴールデンウィークに実施される「川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカ）2009」イベント開催に向けた検討・準備・調整を行い、アートを活かしたまちづくりのモデル事業としての企画・準備業務を実施しました。			
2009年度 実施結果	達成状況区分 3	・川崎市アートセンターでは、芸術文化を創り、楽しむとともに、アーティストの育成につながる芸術文化の創造、発信・交流を促進するため、青少年舞台芸術教育・育成事業（参加者18名）等をの主催、共催及び提携事業実施しました。 ・川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）2009開催に向けた準備（広報活動、企画会議及び実行委員会の開催、市内外の関係機関との連絡調整等）を行い、4月24日から5月10日まで開催しました。その後の検証により、持続可能な地域主体の取組として継続して実施することとなったため、来年度の開催に向けて「川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）2010」実行委員会を立ち上げ、実施主体の検討、企画内容の立案及び広報方針の決定を行いました。 【環境等の変化・課題等】 川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）2009の終了後、アンケート結果、企画会議、実行委員会の意見等をもとにした検証を実施し、持続可能な地域主体の取組として今後も継続して開催することとなりました。			

施 策 計 画

施 策 計 画 名	現 状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
○ しんゆり・芸術のまちの推進 新百合ヶ丘駅周辺地区を中心に、芸術を通じた魅力と活力あるまちづくりを推進します。	●「KAWASAKIしんゆり映画祭」の開催 ●地域メディア、インターネット等による情報発信 ●新百合ヶ丘駅周辺に案内板(サイン)の設置	●「KAWASAKIしんゆり映画祭」の開催 ●地域メディア、インターネット等による情報発信 ●総合的な案内板(サイン)等の整備			事業推進
2008年度 実施結果	達成状況区分 3	・約1か月間の長期間にわたり川崎市アートセンターを拠点として「KAWASAKIしんゆり映画祭」を開催し、新しくオールナイト上映会や青空市場、物産展を実施するなど市民との交流やまちづくりに向けた取組を行いました。 ・芸術のまちにふさわしい案内板(サイン)の整備やさまざまなメディアの活用による情報発信を行いました。 ・「しんゆり・芸術のまち」を推進する「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラムを中心として市民、事業者、商業者、大学関連(昭和音大、映画学校、専修)等のネットワークにより、幅広い事業連携が確立されました。これに伴い、広報活動とともに、個々のイベント等同士が連携しジャンルを超えた多くの人材がかかわることで、相乗効果生まれ、地域の活性化につながりました。			
2009年度 実施結果	達成状況区分 3	・「KAWASAKIしんゆり映画祭」を運営する事務局を組織するための支援、映画祭のボランティアスタッフ養成講座の開催(5月16日及び5月23日開催、講座参加者17人、受講者によるボランティア参加者16人)等を行い、第15回「KAWASAKIしんゆり映画祭2009」を開催しました(9月19日～27日(前年度10月12日～11月3日)、参加者2,182名(前年度3,285名))。 ・「しんゆり・芸術のまち」の推進に向け、マイタウン21、タウンニュース、J-COMせたまち、ミスモリッシュ、くらしの窓及びK-Pressによる情報発信を行いました。 ・新百合ヶ丘駅周辺への案内板(サイン)の設置に向けて、デザイン・設置場所の地元景観形成協議会への諮問、麻生区建設センターへの工事依頼及び関係機関への工事説明を行い、設置工事が完了しました。 ・「しんゆり・芸術のまち」の推進に向け、「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラムのネットワーク機能を活かすほか、推進機関として2月にNPO法人が新たに設立され、まちづくりの推進体制を確立しました。また、新たに情報コンシェルジュなどを行う「新百合ヶ丘駅周辺地区活性化推進事業」の開始、「Kirara@アートしんゆり」(11月21日～2月14日開催)及び「しんゆりオーリーブまつり」(10月3日～11月8日開催・初開催)の開催支援などを行いました。			
○ 藤子・F・不二雄ミュージアムの整備 藤子プロから寄贈予定の「藤子・F・不二雄ミュージアム」を関係事業者と連携し、開館に向けた取組を進めます。また、藤子氏の作品の有効活用を図りながら、市北部の新たな魅力の発信拠点となるよう整備します。	●整備に向けた基本合意の締結 ●立地場所の決定 ●関係事業者との基本構想の調整 ●かわさき市民祭りと連携したイベントの実施	●党書の締結に向けた関係事業者との調整 ●関係事業者との基本計画の調整 ●プレイベントの開催	●党書に基づく事業推進 ●関係事業者との基本設計・実施設計の調整 ●文化施設の寄附行為に対する藤子プロとの調整	●工事着手 ●新たな文化施設の設置条例の制定	●開館(2011年秋)
2008年度 実施結果	達成状況区分 3	・党書の締結に向け関係事業者との最終調整を行うとともに、ミュージアム整備に向けた基本計画(案)について、公表に向けた最終案の確認を行いました。 ・生田緑地サマーナイトミュージアムにおいて連携プレイベントを実施するとともに、国際多摩川マラソンや川崎フロンターレ対ガンバ大阪戦においてドラえもん型ソーラーカーの活用によるプレイベントを開催し、ミュージアム開館へ向けたPRを行いました。			
2009年度 実施結果	達成状況区分 3	・党書について、藤子プロと調整を行い、締結するとともに、パブリックコメント手続を経て、基本計画を策定しました。 ・党書及び基本計画に基づき、藤子・F・不二雄ミュージアムの運営方法について、藤子プロと調整を行いました。 ・基本設計・実施設計について、関係事業者との調整を進め、建設着工に向けた基本設計及び実施設計を完了するとともに、事業用地の確保のための土地所有者との最終合意形成及び建設に必要な行政手続を実施しました。 ・文化施設に係る負担付きの寄附の受納について、議会へ上程し、議決を得ました。 ・川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)2009と連携し、原画展(入場者3,570人)を実施しました(4～5月)。			

施 策 計 画

施 策 計 画 名	現 状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
○ 青少年科学館の改築整備 青少年科学館の再整備に加え、生田緑地のビジターセンターや総合インフォメーション、レストハウスを整備します。	● 基本計画	● 基本設計	● 実施設計	● 工事着手	● 完成・開館 (2011年度)
2008年度 実施結果	達成状況区分 3	・生田緑地の総合インフォメーションサテライト機能やレストハウス機能の整備を併せた、青少年科学館改築整備を行うための改築及び展示の基本設計を実施しました。			
2009年度 実施結果	達成状況区分 3	・改築に向け、改築実施設計委託(6月22日契約、3月15日完了)、展示実施設計委託(4月30日契約、3月31日完了)及びプラネタリウム開発委託(3月1日契約、継続実施)を実施しました。			
○ 映像のまち・かわさきの推進 映像関連の民間の動きとの連携により本市の魅力を発信し、映像を核としたまちづくりを推進します。	● 映像のまち・かわさき推進のための調査研究、モデル事業の検討	● 「(仮称)映像のまち・かわさき推進フォーラム」の立ち上げ ● フィルムサポートの立ち上げ ● モデル連携事業の実施 ● アジアとの連携事業	● (仮称)映像のまち・かわさき推進フォーラム運営支援事業 ● フィルムサポートとの連携	事業推進	
2008年度 実施結果	達成状況区分 2	・「映像のまち・かわさき」の発展に向けて、「映像のまち・かわさき」推進フォーラム及びNPO法人MOVEART応援隊(フィルムサポート)の立上げ支援をするとともに、韓国の京畿道、富川市との連携を図りました。 ・モデル連携事業については年度当初の想定事業に加え、多分野での事業(川中島小学校5年生の映画制作、かわしんビジネスフェア出展、高校生向け試写会の実施等)を進めることができ、その効果として市内外からの新たな事業提携や事業展開の提案も受けました。			
2009年度 実施結果	達成状況区分 3	・「映像のまち・かわさき」推進フォーラムと連携し、高校生限定試写会、小学校での映像制作等による映像教育の推進、映像コンテンツビジネスサロン開催、アジアンフェスタや市民祭り等の地域イベント出展等を行いました。 ・国の緊急雇用経済対策事業を活用し、NPOによるロケ地のデータベース化、川崎大師商店街への「映まちキネマハウス」の開設や本市事業の動画PR映像の制作など、映像を活用した地域の活性化に取り組みました。 ・映像関連ビジネスネットワーク化モデル事業として、「毎日映画コンクール」を核にパブリックビューイングを中心に地域の活性化を推進するとともに、川崎の魅力を全国に発信しました。 ・7月の「富川ファンタスティック国際映画祭」へ参加し、韓国映画界との交流を図りました。			

施 策 計 画

施 策 計 画 名	現 状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
アクションプログラム：シティセールスの推進と観光振興【達成状況区分： 2】					
○ 観光の振興	●パンフレットなどによる情報発信 ●主要駅での観光情報案内の実施 ●ビジット・ジャパン・キャンペーン関連事業の実施 ●かわさき市民祭りの開催 ●「産業観光読本」の発行、「産業観光検定」の実施	●パンフレットなどによる情報提供・情報発信 ●主要駅での観光情報案内の実施 ●外国人観光客の受入態勢の整備 ●かわさき市民祭りの開催 ●産業観光検定の実施 ●産業観光モニターツアーの試行実施	●パンフレットの見直し等による提供情報の充実	●提供情報・情報発信手法の見直し	事業推進
					●民間事業者による産業観光ツアーの事業化
				●産業観光ツアーの事業化の検討	
2008年度 実施結果		達成状況区分 3	・観光パンフレット「川崎日和り」及び観光協会連合会HP、川崎駅及び登戸駅に設置している観光情報端末機などにより積極的な観光情報の提供・発信を行いました。 ・「川崎日和り」(英語・中国語・韓国語版)の発行、外国人観光客向けホームページの作成及びビジット・ジャパン・キャンペーンにおける韓国メディア等招聘事業の実施(12月7日～12日)で外国人観光客の受入態勢の整備を行いました。 ・かわさき市民祭りを11月1日～3日開催し、578,000人を動員しました。 ・「川崎産業観光検定」に上級区分を新設し、平成21年3月に実施しました。 ・市内の産業観光施設を中心に、「川崎産業観光モニターツアー」を8回実施しました。		
2009年度 実施結果		達成状況区分 2	・携帯端末観光情報ホームページを作成し、開設しました。 ・川崎・登戸観光情報端末を安定的に運営管理し、確実に観光情報を発信しました。 ・外国語ホームページのプロモーション活動を中国・韓国に対して7・8月に行い、アクセス数について、プロモーション前の6月に比べ、7月は117%増、8月は127%増の効果をえました。また、ビジット・ジャパン・キャンペーン事業として、横浜市・神奈川県等と連携して7月9日及び10日に香港メディア関係者を招聘し、川崎の魅力を効果的に海外に発信しました。また、新規企画としてホテル情報及びフォトギャラリーのページを作成し、内容の充実を図りました。 ・かわさき市民祭りの実行委員会を6月4日に開催し、準備を進め、10月30日から11月1日までかわさき市民祭りを開催しました。その後、来年度の開催に向けた検討会を実施し、課題を整理しました。 ・産業観光検定合格者の集い(参加者34人)及び検定合格者のうち希望者を対象にした「産業観光ガイド養成講座」(4回、参加者65人)を開催し、研修修了者の活用の検討にとどまらず、予定を大きく早めて研修修了者に産業観光ツアー及び工場夜景バスツアーの有料のガイドとして活躍してもらうまで事業を推進することができました。 ・産業観光施設と川崎の観光資源を取り入れ、旅行会社とタイアップした「産業観光ツアー」を、計画の10回を上回る、13回実施しました。 ・工場景観を活用した取組として、民間事業者とタイアップし、平成22年度以降の事業実施を検討していた「工場夜景屋形船クルーズ」の定期運航及び「川崎工場夜景バスツアー」を予定より大幅に早く事業化することに成功しました。		

施 策 計 画

施 策 計 画 名	現 状	目 標			
		2008(平成20)年度	2009(平成21)年度	2010(平成22)年度	2011(平成23)年度以降
○ シティセールスの推進 さまざまなメディアの活用や民間事業者との連携により、海外も含め、市内外に向けたシティセールスを推進します。	●専門紙(誌)・フリーペーパー等の活用によるシティセールスの推進 ●イメージアップ事業認定制度の推進 ●放送・出版関係者を対象にしたメディアツアーの実施	●専門紙(誌)・フリーペーパー等の活用によるシティセールスの推進 ●イメージアップ事業認定制度の推進 ●メディアツアーの拡充 ●海外向けパブリシティ活動の実施 ●情報の多言語化による情報発信の検討・実施	●メディアツアーの推進 ●海外向けパブリシティ活動の推進 ●情報の多言語化による情報発信の推進		事業推進
2008年度 実施結果	達成状況区分 3	・新聞、情報誌等におけるイメージアップ広告の掲載やパンフレットの製作・配布、プロモーションビデオの放映等により本市の魅力を市内外に情報発信しました。 ・イメージアップ認定事業として、8件を認定し、民間活力と連携した魅力づくりや情報発信を行いました。 ・各種メディアに対して、メディアツアーなどパブリシティ活動を積極的に展開し、さまざまな情報誌等に本市の魅力情報が取り上げられました。 ・情報の多言語化による情報発信について検討し、フォーリンプレスセンターを活用した海外パブリシティ活動の実施、在留外国人向けメディア(英字新聞等)の活用や多言語版パンフレットの製作・配布により海外に向けた情報発信を行いました。			
2009年度 実施結果	達成状況区分 2	・日刊新聞紙へのイメージアップ広告の掲載、パブリシティ活動による各種取組・イベント等魅力情報の発信を行い、パブリシティによる広告換算額が昨年度に初めて達成した10億円を超える年間実績(1,028,329千円)を大きく上回る1,579,435千円(累計)の成果をあげました。 ・イメージアップ事業については、34件の応募事業の中から9件の事業を認定し、認定各事業を本市の魅力情報として広く発信しました。 ・イメージアップCMコンテストについては、昨年の約2.5倍となる過去最高の52作品の応募を得、入賞作品を新宿アルタビジョンでの放映に活用するなど本市の魅力情報として広く発信に活用しました。 ・イタリアサミット及び第15回気候変動枠組条約締約国会議(COP15)に合わせて国内英字紙を活用した情報発信を行いました。また、同紙を現地配布したほかフォーリンプレスセンターを活用した環境技術展の情報配信の実施など、海外向けパブリシティ活動を行いました。 【環境等の変化・課題等】 メディアリレーションのより効果的な手法による構築のため、「メディアツアーの推進」に換えて、主要テレビ局の情報番組のロケハン・ロケへの同行を行いました。			